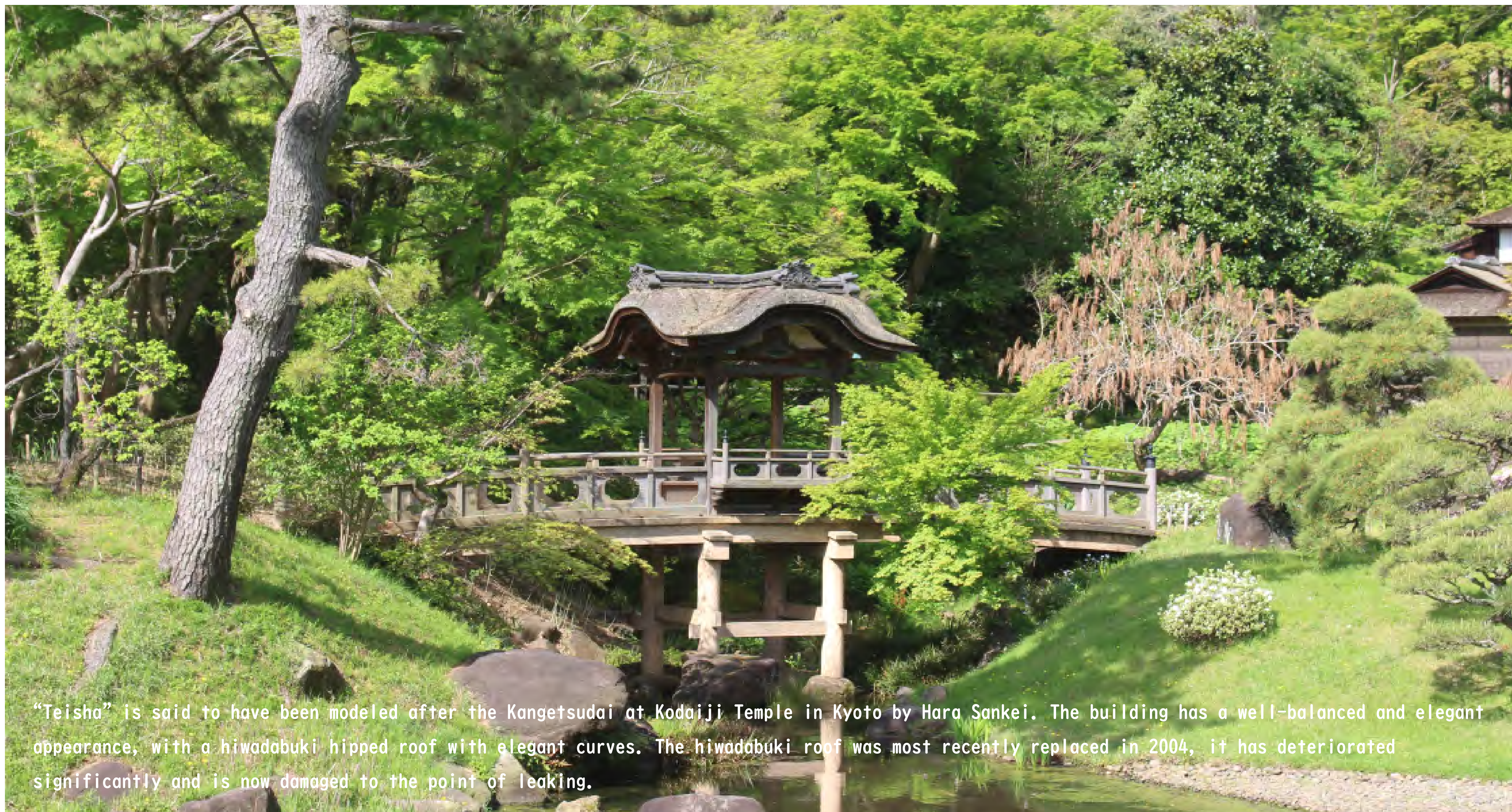


ていしゃ ひわだぶき 亭榭 檜皮葺屋根葺替工事

修理現場から
文化力
POWER OF CULTURE



“Teisha” is said to have been modeled after the Kangetsudai at Kodaiji Temple in Kyoto by Hara Sankei. The building has a well-balanced and elegant appearance, with a hiwadabuki hipped roof with elegant curves. The hiwadabuki roof was most recently replaced in 2004, it has deteriorated significantly and is now damaged to the point of leaking.

内苑の景観の一つの見どころである「^{ていしゃ}亭榭」は、^{こうだいじ}原三溪が京都・^{かんげつだい}高台寺の観月台を模して作ったとされる建物で、^{しょうしゃ たたず}バランスの取れた瀟洒な佇まい、優雅な曲線で構成される^{ひわだぶき}檜皮葺^{しほう}四方唐破風^{からはふ}屋根が見どころです。檜皮葺屋根は直近では平成16(2004)年に葺き替えられましたが、^{こう}屋根勾配が^{ばい ゆる}緩く、また一時期屋根上に樹木が覆いかぶさっていたこともあり劣化が著しく進み、現在雨漏りが発生するほど傷んでしまっています。

要修理ポイント

^{ひわだ ぶ}檜皮葺屋根が劣化し雨が染み込み、天井にまで漏れてしまっています。



^{むねがわら}棟瓦が部分的に破損して、欠損してしまっています。

屋根の内側で過去にミツバチが営巣し、蜜が残ってしまったことにより板が腐ってしまいました。



工事のポイント

文化財の保存修理工事では、基本的には形や素材・技法を変えず現在の形を受け継いで新たな材料で葺き替えます。しかし今回は、古写真と見比べてみたところ棟（^{むね}屋根頂部）の瓦の積み方が現状と大正時代では異なるということが分かったため、写真を参考にして、大正時代の^{むねがわら}棟瓦積みの復原を試みます。



大正11(1923)年の亭榭と原三溪



古写真（戦前撮影）



現在の様子（2024年撮影）

ひわだぶき 檜皮葺 とは？

日本では古来、植物を材料として屋根を葺く（＝屋根を作る）ことが行われてきました。中でも^{ひわだ ひのき}檜皮＝檜の樹皮は防水性に優れ、薄く柔らかい素材であることから優美な曲線を持つ屋根を葺くことができ、屋根の中でも最も格式の高いものとして社寺や宮殿建築などで多く用いられてきました。

しかし屋根は常に風雨や強い日差しに^{さら}晒される箇所であり、徐々に劣化し時に雨漏りなどの大きな被害をもたらすこともあります。そのため定期的な作り替え＝葺き替え作業は欠かせず、^{ひわだぶき}檜皮葺屋根の場合およそ30年毎に葺き替えを行っています。